

つなぐ

Vol.15

2017.5月

医者には、アスリートなのかもしれない。

今年、当院の新たな仲間となった心臓血管外科主任部長

坂口元は、正にそう言える存在だ。

彼は、産婦人科医の父、祖父をもち、

幼い頃から、医者の存在はとても身近にあった。

やがて医大へと進み、将来を模索する中で、

8時間かけ命を救う現場に感銘を受け、

心臓血管外科医になることを決意した。

しかし、研修医時代、苦労は絶えなかった。

ハードな勤務、圧倒的な手術を行う先生方の

プレッシャー……長い下積み耐えながら、

一歩一歩リーダーへの道を駆け上がっていた。

同時にチームをまとめなければならぬ

不安も抱えていた。

そんな時、同僚の一言が自分を変えた。

「リーダーは、常にポジティブだ。」

そして、その同僚の勧めで、ヒルクライムレース、

マラソン、トレイルラン、トライアスロンなど、

一見医療とは関係ないように見える様々なスポーツを始めた。

つらいこともあるが、必ずゴールがある。

自分の目指す道と、重なる瞬間だった。

彼は今、様々な経験を糧にしながら、

チームの一体感、若手のチャレンジの場を大切に

新たな道を走り始めた。

人と命をつなぐゴールを目指して。

